

# **LY Corporation Group**

## **Our Mission & Values**

ver.1.0

## INTRODUCTION

はじめに

**MISSION**      ————      - 「WOW」「!」に込めた思い  
ミッション      - ライフプラットフォームとは

**AIM**            ————      - どんな会社を目指すのか  
エイム

**VALUES**      ————      - ユーザーファースト  
バリュー      - やりぬく  
- 少数精鋭

# INTRODUCTION

私たちが実現しようとしている世界、そしてそれを形にするための具体的な方法をまとめました。  
LINEヤフーグループで働くすべての人にとって、追求すべき姿を明確に理解し、  
判断と選択の基準として各自の仕事と行動に適用し、  
そして絶え間なく挑戦するための力となることを願っています。

# MISSION

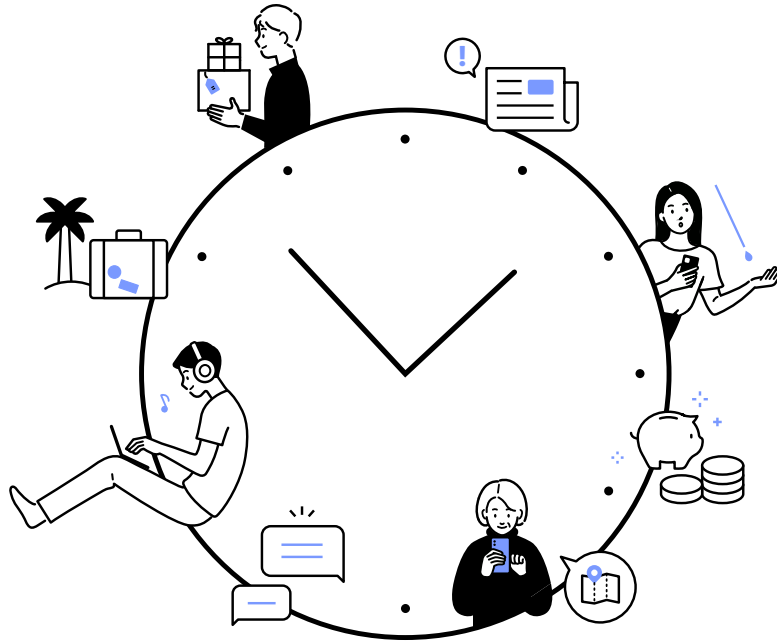
# 「WOW」なライフプラットフォームを創り、 日常に「！」を届ける。

これが私たちの掲げるミッションです。

私たちが創るプロダクトによって、世の中やユーザーの生活がどう変わっていくのか。

それを想像しながら、日々の業務に取り組む必要があります。

では、このミッションにはどのような思いが込められているのでしょうか。



# WOW and !

## 「WOW」「!」とは？

「WOW」はLINE が、「!」はヤフーが、  
それぞれ合併以前より、長年大切にしてきた価値観で、  
これからも大切にすべきコアとなるものです。

「WOW」とは、初めての体験であり、他の人に教えたくくなるような感動のこと。

「!」は想像を超える体験や、今の延長線上にない創造性を意味します。

私たちは100点で満足することなく、  
想像以上の120点の感動をこれからもユーザーに届けたい、  
そんな強い意志をミッションに込めています。  
業務内容に関わらず、全員で日々追求していきましょう。

# Life Platform

## ライフプラットフォームとは？

LINEヤフーグループは、  
ユーザーの日常をあらゆる場面で支えることをミッションとします。  
そのため、実に幅広い領域のプロダクトを提供しています。  
検索、メッセージャー、メディア、コマース、金融など、  
ユーザーの毎日の利便性を高めることで、  
より豊かな生活を送っていただけるようにしていくのです。  
24時間365日、起きている間も、眠っている間も、  
すべてのユーザーに寄り添って、より良いものにするんだという決意を  
「ライフプラットフォーム」という言葉に込めました。

**AIM**



# Our Aim

## 私たちはどんな会社を目指すのか？

ひとことで表すなら、圧倒的なプロダクトドリブン。それが私たちの目指す姿です。

では私たちにとっての理想のプロダクトとは、どんなものでしょうか？

まず、ユーザーに感動を与えるプロダクトであること。「WOW」「！」な体験にとことんこだわっていきましょう。

そして、No.1であること。ユーザーに選ばれ続けるために、No.2やNo.3のクオリティで満足することはありません。

日々の仕事では、いつもこの2つにこだわり抜き、ユーザーの利便性をどんどん高めていきましょう。

**「WOW」「！」**

ユーザーに感動を  
与えるサービス

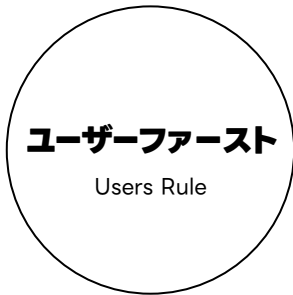
**No.1**

ナンバーワンの  
サービス

# VALUES

## Values

ミッションを実現するために定義した働き方が、バリューです。  
バリューは業務を推進するための基準として、大きく3つのパートに分かれています。  
「ユーザーファースト」とは、全社員が大切にしたいマインドのこと。  
「やりぬく」は、ミッションの実現に欠かせない個人の行動指針。  
「少数精鋭」は、そんな個人が集まったチームとしての指針です。  
自分の仕事に適用して実行できるよう、9つの具体的な行動様式に区分しています。



**データを基に俯瞰で判断**  
Always Data-driven

**細部へのこだわりが違いを生む**  
Perfect the Details

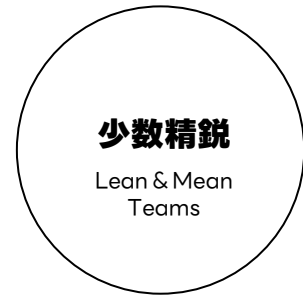
**信頼を勝ち得る**  
Stay Trustworthy



**本質に集中**  
Work Intensely and Be Focused

**圧倒的当事者意識と成果へのこだわり**  
Take the Initiative

**プロフェッショナリズムの徹底**  
Embody Professionalism



**率直な議論から導く決断**  
Open Communication,  
Vertical Decision-making

**ゴールに向かって同期し続ける**  
Keep in Sync with Goals

**挑戦を共に楽しむ**  
Enjoy the Challenges Together

# ユーザーファースト

## Users Rule

日々の業務において、「ユーザーが求めているのか」「ユーザーがより便利になるのか」この2つを常に判断の軸としてください。

ユーザーの関心と選択があつてこそ、プロダクトは使ってもらえます。

また、ユーザーのニーズは変化し続けるものです。

世の中のあらゆることにアンテナを張りましょう。

ユーザーを取り巻く環境は、競合、市況、技術進歩など様々な因子で相対的に変化します。

ユーザーから見て私たちの会社やプロダクトがどう映るのかを俯瞰で見つめる力が必要です。

その結果として、ユーザーに選ばれるプロダクトを提供できるのです。

# ユーザーファースト

## Users Rule

### データを基に俯瞰で判断

#### Always Data-driven

自分だったら使わないプロダクトは、創るべきではありません。一方で、自分しか使わないものも創るべきではありません。そんな壁を打ち破るには、データが必要不可欠です。自分の熱量と市場との差分はどうしても発生してしまうもの。データから、ユーザー本人も気づいていないようなニーズも発掘できます。状況は常に変わりゆくものと捉え、絶えずアップデートする。その積み重ねを怠らず、より良い判断をしていきましょう。

### 細部へのこだわりが違いを生む

#### Perfect the Details

細部へのこだわりや、完成度こそが、ユーザーやクライアントの心を動かします。その積み重ねによって、他ではなく、私たちを選んでいただけるのです。ユーザーやクライアントが見ている景色を解像度高くイメージし、細部に至るまで改善を重ねましょう。

### 信頼を勝ち得る

#### Stay Trustworthy

私たちが信頼を得るべき相手は、ユーザーはもちろん、一緒に働く同僚、クライアントなど多岐にわたります。信頼を築くことに近道はありません。日々の業務の中で、「何を達成するか」だけでなく、「どのように正しく進めるか」を考えて行動することが重要です。ライフプラットフォームとして様々なステークホルダーからいただいている信頼と期待に、真摯に向き合いきましょう。

# やりぬく

## Get It Done

私たちの仕事には、複雑で多様な課題が日々発生します。

それぞれ難易度が高く、簡単に解決できるものではありません。

そんなときは、できない理由ではなく、できる方法を模索するスタンスを忘れないでください。

考えうるすべての方法を試し、後悔なく全力を尽くせば、

たとえ失敗したとしても、その経験は次の挑戦を成功に導く糧になるでしょう。

成功するその日まで、やりぬくのです。

## やりぬく

### Get It Done

#### 本質に集中

##### Work Intensely and Be Focused

私たちの仕事の本質には、さまざまな要素があります。プロダクトを使ってくれているユーザーのパーセプションは何なのか。提供する裏側にある、ビジネスモデルや市場構造は何なのか。自分が関わる「仕事」を深く理解し、優先順位をつけ、本質的な課題に時間と労力を集中しましょう。同じ時間を使うとしても、ただ一生懸命ではなく、極度に集中しなければ成功には辿り着けません。LINEやフーグループで働くひとりひとりにおける大事なスキルです。

#### 圧倒的当事者意識と成果へのこだわり

##### Take the Initiative

自らが関わる仕事には、担当領域だけに留まらず、最後のゴールに至るプロセスすべてにコミットしましょう。それが「圧倒的当事者意識」の意味するところです。代案なき否定や協力なき批判ではなく、前向きに、隣の仲間を助け、最後まで責任を持って取り組むのです。そして成果に対し、みんなで徹底してこだわりましょう。期限と目標を明確に設定し、それに向かって、達成する意識を常に持ち続けることが肝要です。

#### プロフェッショナリズムの徹底

##### Embody Professionalism

プロフェッショナルだと誰もが認める人は、どのような人物でしょうか。自身の担当領域において、他の人よりも優れた成果を生み出せる人のことです。ユーザー、クライアント、同僚からの期待を大幅に超えましょう。そうした個が集まることで、組織は強くなり、仕事の質は磨き抜かれるのです。

# 少数精鋭

## Lean & Mean Teams

少数精鋭の意味するところは

「挑戦する課題に対し、最適化された精鋭組織」です。

人員が少なすぎると、当然プロダクトの完成度は低くなります。

かといって多すぎるとコミュニケーションコストばかりが膨らみ、適切なタイミングでユーザーに届けることができません。

また、必要なケーパビリティと情熱を持ったメンバーでなければ、最短距離での業務遂行はできません。

この「挑戦する課題に対し、最適化された精鋭組織」を意識し、成果を出す組織を創りましょう。



# 少数精鋭

## Lean & Mean Teams

### 率直な議論から導く決断

#### Open Communication, Vertical Decision-making

地位、役職、年齢を問わず、十分に率直な議論を心がけましょう。そのためには議論に参加するすべての人がターゲットやビジネスモデルに対し、深い理解を持つ必要があります。そうでなければ、率直で意味のある議論はできません。フラットな議論を尽くした後の決断はリーダーの役割です。リーダーは意思決定に責任を負い、メンバーはその決定が自分の意見と違って、リーダーの判断を信じて一緒に力を合わせ、業務に取り組みましょう。

### ゴールに向かって同期し続ける

#### Keep in Sync with Goals

世の中の技術は日進月歩です。ユーザーニーズや市場環境、法規制、さらには社員の働き方など、世の中の技術や価値観は刻一刻と変化します。そのため、リーダーとメンバーは目標と方向性を常に明確に共有し、互いにフィードバックを交わす必要があります。チームみんなで認識をアップデートしつづけていきましょう。

### 挑戦を共に楽しむ

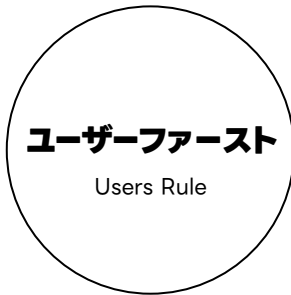
#### Enjoy the Challenges Together

ビジネスとは、本当に困難なものです。市場環境の変化と複雑化はとどまるところを知りません。ただ、一人では越えられない壁を共に働く仲間とぶつかって越えたときの達成感には、言葉にできない喜びがあります。共に楽しみながら意見を交わし、より良いプロダクトを生み出すのです。難しいことへのチャレンジを、いつだって楽しむカルチャーでいきましょう。

Mission

# 「WOW」なライフプラットフォームを創り、 日常に「！」を届ける。

Values



**データを基に俯瞰で判断**  
Always Data-driven

**細部へのこだわりが違いを生む**  
Perfect the Details

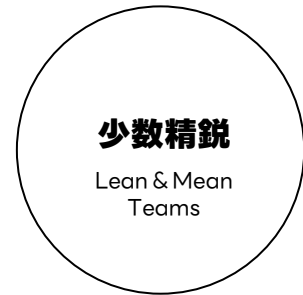
**信頼を勝ち得る**  
Stay Trustworthy



**本質に集中**  
Work Intensely and Be Focused

**圧倒的当事者意識と成果へのこだわり**  
Take the Initiative

**プロフェッショナリズムの徹底**  
Embody Professionalism



**率直な議論から導く決断**  
Open Communication,  
Vertical Decision-making

**ゴールに向かって同期し続ける**  
Keep in Sync with Goals

**挑戦を共に楽しむ**  
Enjoy the Challenges Together

ミッションとバリューは、LINEヤフーグループのうち以下の企業で共有しています。

LINEヤフー株式会社

LINEビジネスサポート株式会社

LINE Credit 株式会社

LINE Friends Japan 株式会社

LINE MUSIC 株式会社

LINE NEXT Holdings 株式会社

LINE Pay 株式会社

LINE証券株式会社

LINE TECHNOLOGY VIETNAM CO., LTD

LINEヤフーコミュニケーションズ株式会社

LINEヤフーマーケティング株式会社

LINE Plus Corporation

LINE STUDIO Corporation

LINE Financial Corporation

LINE Pay Plus Corporation

LINE Biz Plus Corporation

LINE NEXT Corporation

LINE PLAY Corporation

LINE Taiwan Limited

LINE Company (Thailand) Limited

PT. LINE PLUS INDONESIA

LINE VIETNAM COMPANY LIMITED

LINE Pay Taiwan Limited

LINE NEXT Inc.

**LINEヤフー**